第33回　万葉集を楽しむ会＠花奈雅和　活動報告書

開催日：令和7（2025）年8月20日（水）10時～12時
場　所：プララ杉田505
参加人数：6名（他教室を入れて12名）
テーマ：ヒメユリ

本日の歌

（訓読）夏の野の　茂みに咲ける　姫百合の　知らえぬ恋は　苦しきものぞ
8/1500　大伴坂上郎女（おおとものさかのうえのいらつめ）
（意味）　夏の野の草のしげみに咲く姫百合のように知られることのない恋はつらいものです

・・
（訓読）　さ百合花　ゆりも逢はむと　思へこそ　今のまさかも　うるはしみすれ
18/4088　大伴家持（おおとものやかもち）
（意味）百合の花　その花のように　のちにもきっと逢おうと思うからこそ　今の今もこうして親しませていただいているのです。

今回の歌は、万葉集の編者とされている大伴家持と、叔母で姑でもある大伴坂上郎女がユリの花を詠んだ歌 2 首です。

大伴坂上郎女の歌について
姫百合は草丈 30～100 ㎝と低い花で、花の季節は他のユリよりも遅い 7 月から 8 月です。なので、夏のすっかり繁った雑草に隠れてしまうほど小さくて目立たないという、姫百合の草丈と花期のどちらも知ることで、その分読み方が深くなる歌だと教えていただきました。

また、姫百合の自生地の南限は宮崎県の高千穂町であり、ヒメユリの南限を超えた土地の沖縄では自生しない。よって、沖縄の有名な「ひめゆりの塔」の「ひめゆり」は花のヒメユリのことではない。合併した2校の校誌の名前を合わせた名前だということです。

大伴家持の歌について
越中守の時に部下の家で開かれた宴で詠われた 3 首の歌の最後の歌で、ササユリの花かずらを見て詠ったものです。その最初の歌はササユリが燈火に揺れて笑っているようでほほえましいという歌を大伴の家持が謡いました。そして、部下が「今後もお会いしたい」と詠いました。それに答えはて詠った歌です。ユリは花のユリとユリ（のちに）の意味があります。

ユリの種類もたくさん教えていただきましたが、ササユリは糸魚川静岡構造線の西側、ヤマユリはその東側に生えるので大伴家持の歌はササユリだということがわかるということです。

高木先生が幼い頃、お母様と実家に向かう長い山道で疲れ切った時に見たササユリの花。その美しい花々を見た時に生き返るように元気が湧いてきたというエピソードは、花を愛で、万葉集の花をテーマに語る高木先生の原点のように思いました。

奈良の率川（いさがわ）神社では6月17日にユリ祭りが行われます。
ササユリが描かれたお守りです。ピンクのお守りは珍しいですね。

本日の高木先生のお着物と帯、帯留、どれもユリがテーマです。
帯はカノコユリ、帯留は左がヒメユリ、右がササユリです。

本日の参加者です。

次回(第３４回)の万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ
令和７年１０月１５日(水)　　１０：００　～　１２：００　プララ杉田505号室
参加費：1,500円　参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします　mondlicht.y.20@gmail.com
令和7年８月２２日　文責：武藤陽子・高木紀世子
＊5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願い致します(資料は後日お渡しいたします)